

平成 23 年度 【学園研究費助成金（ B ）】研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ イヅカ エリト
氏名 飯塚 恵理人

研究期間 平成 23 年度

研究課題名 昭和初期古典芸能の基礎的研究 ―ラジオ放送と映画との関わりを中心に―

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	飯塚恵理人	文化情報学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

大正 14 年にラジオの全国放送で東京の「家元」の音が知られ、地方の人々が家元の吹き込みのレコードを用いて稽古したことによって、謡い方は急速に全国統一された。本年二月東京代々木の梅若万三郎家倉庫から、戦前の初代万三郎の舞姿を収めた 16 ミリフィルムが発見された。ただ、戦前能楽師で初めて芸術院会員となった梅若万三郎が、弟子の稽古目的で舞姿の撮影をしていたことは貴重であろう。本研究では、梅若万三郎家所蔵の 16 ミリフィルムや、SP レコード・オープンリールテープ録音の整理とデジタル化から、昭和初期の古典芸能の変質、特に流儀内での謡い方、舞い方の全国統一の過程について考えたい。

2. 研究方法等 (300 字程度で記述)

- ・梅若万三郎家(代々木)に伺い、16 ミリフィルム・オープンリールテープを整理する。
- ・そのうち特に重要なものを、委託費を用いてデジタル化する。
- ・現在の所作・謡い方の違いを八田達弥師に伺う。
- ・昭和初期の sp レコード(放送で流された曲・出演者)を収集・整理してデジタル化する
- ・三曲・箏曲ならば岩田西園師(名古屋三曲演奏家会代表)、長唄ならば杵屋三太郎師(杵屋三太郎家家元)にデジタル化した音源を聴いていただき、現在との違いについて聞き書きする。

これらをまとめ、昭和初期の古典芸能の変化について「名古屋芸能文化」「橘香」(梅若研究会＝梅若万三郎家後援会会誌)に投稿する。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本年度の研究費用は主に梅若万三郎家所蔵のオープンリールテープ・乾板写真のデジタル化に充てた。オープンリール40本はほとんどが戦後の昭和20年代から30年代のものだが、この時期にはすでに「梅若流」の謡い方ではなく、観世流大成版によって観世流に統一されたあとの謡い方であることが確認できた。昨年以来継続の梅若万三郎家の16ミリフィルムデジタル化では、昭和27年に清水市で行われたエレーヌ夫人羽衣の碑除幕式の映像と、その前後に染井能楽堂で行われたフランス人ジャーナリストマルセル・ジュグラリス主催のエレーヌ夫人の追悼の羽衣のフランス語の映画フィルムを手掛けた。マルセル・ジュグラリスがジャーナリストとして二代目梅若万三郎の能を世界に誇る伝統文化の体現者として静岡の放送局・新聞社・行政にも働き掛けて売りこむ過程なども伺うことが出来た。

このエレーヌ夫人羽衣の碑のエレーヌ夫人とはマルセルの最初の妻でフランス人舞踏家として能に興味を持ち、フランスで能の上演を行いたいと願ってspレコード・写真等から歌劇ハゴロモを創作し、ギメ美術館で上演してフランス人から東洋的と絶賛されたが不幸にも白血病で夭折し、日本を見ることはなかった。このエレーヌが遺した歌劇ハゴロモ用の能装束長絹風のエレーヌ手縫いの舞台衣装やエレーヌが参考にしたspレコード、楽譜などはマルセルにより静岡市に寄贈されたので、これらの遺品も調査した。この調査で分かったことについては本学の脇田准教授とともに梅若研究会の機関紙である「橘香」に連載した。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①能楽	②メディア	③フランス	④16ミリフィルム
⑤文化交流	⑥オープンリールテープ	⑦デジタル化	⑧spレコード

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

飯塚恵理人 「梅若万三郎家所蔵 16 ミリ映画フィルムのデジタル化について」「橘香」2011年8月号 18-19頁
飯塚恵理人 「梅若万三郎家所蔵乾板フィルムのデジタル化について」「橘香」2011年12月号 16-17頁